

## 糖尿病の方の傷の対処について

堀越 医院  
堀越 健太郎 先生

糖尿病の患者さんには、「傷が治りづらい」「傷が腫れやすく化膿しやすい」などの症状が見られる方がいます。軽い傷と思い放置していたところ、完治までに意外と長い期間を要した経験のある患者さんも少なくないと思います。

動脈硬化により局所の血流が不十分となり、傷を負った組織の修復が遅れること、血糖値の悪化により細菌感染への抵抗力が低下することなどが主な原因です。また、糖尿病性神経症を有する患者さんのなかには熱さや痛みに対する知覚が弱く、外傷や火傷を負ってもそれに気が付きにくい方もおられますので、それも要因になります。

体の末梢部位ほど血液の循環は低下しやすく、したがって手足（特に足の指先や踵）が病状の現れやすい場所です。

農作業や除草作業では手袋などを利用し、手指を保護してください。爪の手入れの時には深爪に注意してください。また靴ずれやまめなどつくらぬよう、なるべく足に合った靴を履くように心掛けてください。寒い季節ではこたつやカイロまたは湯たんぽなどでの熱傷に注意してください。夏季が近づくにつれて趾間に水虫（白癬）が出現しやすくなります。放っておくと細菌感染を併発することが少なくないので、水虫のある患者さんは早めに治療を開始し、できるだけ完治させてください。腫れが強く、皮膚に潰瘍を伴う場合や指先の色調が青黒く変化するなどの症状が見られる場合は、大きな血管の障害やほかの疾患の関与も考えられますので一段の注意が必要です。

普段から外傷をせぬよう、またできてしまった傷に対しては自身での手入れを早めに行うよう心掛けてください。治りが悪いと感じたら早めに医療機関での治療を受けてください。

もちろん糖尿病の治療全般についてはできるだけ良い状況を保つことが重要です。